

乳房炎に立ち向かう 冬場は肌荒れの季節

— S A の新規感染に御用心 —

釧路東部事業センター 姉別家畜診療所 獣医師 澤口 真樹

新年明けましておめでとうございます。乳房炎部会です。私たちは有志の集まりで、乳房炎について治療・予防の研究や搾乳立会の報告・討論、外部講師を招いた講習など乳房炎に関わることなら幅広く取り上げ、情報交換、乳房炎予防・治療方法の確立や普及に取り組んでいます。今月号から連載の機会を頂きましたので、1年間、全6回を予定として季節や時期に合わせた乳房炎に関する話題について組合員の方々に読んで頂こうと思います。

冬の乳房炎は怖い?!

今回は黄色ブドウ球菌 (Staphylococcus aureus : SA) に起因し、取り上げようと思います。SAは伝染性の乳房炎原因菌であり、感染牛

の乳頭や乳汁から搾乳者の手や搾乳機械・道具などを介して伝染します。またSAに感染し乳房炎になった牛は、治癒したように見えても乳房内に微小膿瘍を形成し、抗生物質の効きにくい保菌牛となり再発することも知られています。そして新たな感染源となり、他の牛への感染リスクが増えていく困った細菌です。そんなSAは冬場、厳寒期に新規発生が多くなる場合があります。なぜでしょうか? SAは感染牛の乳腺・乳汁以外では乳頭の傷や肌荒れ箇所に着着・増殖しやすい傾向があります。つまり、厳寒期に乳頭が肌荒れを起こしやすくなることにより、乳頭に微小な傷が出来て、そこがSAにとって格好の増殖場所となってしまうからです。

搾乳時に何度も拭かれて、搾乳後に乳頭が乾ききらないまま冷たく乾燥した強い風に当たれば、乳頭の皮膚も傷みます。人の手と同じです。そこにSAが入り込んで、新規感染が増えていきます。そうならないためにも乳頭の肌ケアは怠らないようにしましょう。最近では厳寒期用のディッピング剤、乳頭の保湿クリームやシーラントが各社から多数出ています。自分たちの作業環境、牛の環境に合ったものを相談し、探して使ってください。もちろんSA対策や治療には、プレ・ポストディッピングなどの搾乳衛生やSA保菌牛の把握、乾乳期治療、ワクチネーションといったものが基本となります。もしSA牛が急に増えてきて困った、SAが増えないようにしたい、SA牛を減らしたいといった要望があれば、獣医師にご相談ください。



他にも、ぜひ乳房炎部会で取り上げてほしい話題などがあれば、お近くの共済組合の獣医師に伝えるか、投書にて教えていただければ、ありがたいです。今年も乳房炎の被害を減らせられるように頑張ってください。2017年もよろしくお願ひします。